

“新年のご挨拶”

会長・理事 井手 祐之

海陸各方面でご活躍の会員並びに日頃ご支援戴いて居ります関係先の皆様方に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、米国でトランプ大統領就任、韓国でも文在寅氏が大統領に就任し、これからの世界情勢がどのように展開して行くか慎重に見極めなければならない年でした。

国内では、将棋の世界で若干15歳の中学生棋士藤井4段が破竹の29連勝達成し微笑ましく思いながら、囲碁将棋では今や人工頭脳に完敗の現実を見て、船のIT化がどこまで進むのかシッカリと見据えながら対応して行かねばならないと気を引き締める処です。

さて、新しい年を迎えて船の世界では種々改革改変が行われ実行に移す年となります。

特に環境問題は喫緊の課題であり、IMOのMEPCで船舶から排出する硫黄酸化物のグローバル規制が2020年開始に決定し、ご存知のように使用燃料油の硫黄分の上限を0.5%とするルールが決まりました。

この条約に対応するには、規制値に対応する燃料を使用するか、排ガス洗浄装置を新たに設置するか、或いはLNG等の代替燃料を使用することになるが、対応燃料が安定して供給可能かどうか、新設する設備の信頼性の問題、代替燃料対応可能な機関への換装、等コスト面での比較検討も然ることながら、今後これらのシステムが順次運転開始されて行けば、ハード面、運用面での種々の問題点も出てくるものと思われ、船舶機関士の苦労は益々増大するばかりです。

また、当協会の技術講演会でも披露戴いた水素エネルギーの有効利用に見るように、大型燃料電池、水素ガスタービン、水素の貯蔵運搬方法、等の新技術への取組に関する新しい

知識・技術の習得も必須となるでしょう。

併せて、自動運航船に付いてもIMOで協議が開始され日本でも種々作業部会が立ち上げられており、現場技術を熟知する船舶機関士の見解を求められ、如何に対応すべきか示さねばならないであろうと思われま

す。とは言え、我々マリネンエンジニアは、安全運航・燃費改善・環境対策を常に頭において日々の業務をこなし、運航遅延、海難事故に繋がる機関故障、の絶無は現場機関士の命題です。

当協会の事業計画は、船用機関技術等に関する調査研究事業、故障情報活用に関する調査研究事業、船用機関技術及び船舶機関士に関する情報発信事業、機関長士の労務問題に関する調査研究事業、その他関連事業、を目標として掲げており次年度も継続して行く所存です。

これら各事業の完遂達成には、会員諸兄及び関係先各位のご理解とご協力が必須であります。

特に当協会が永年続けております「故障事例の収集と分析業務」が、会員・船社・関係先に認知され利用されるには十分な情報量が必要なことは自明の理であり、アップデートな情報収集が不可欠であることから、今後とも関係各位のご協力を宜しくお願い致します。同時に年々改良を重ね使い易くなった当協会のホームページを是非ご覧戴き、当協会への要望やご意見、及び斬新なアイデアの提案を期待致します。

最後に会員諸兄と関係各位のご多幸と船舶のご安航をお祈りし新年の挨拶と致します。

